



事例から見る 今後の連携について

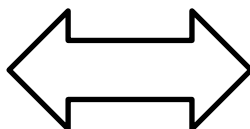
世田谷区が進める大学連携の取り組み

目的

- ・ 多種多様な17大学(学部)が集積する世田谷区ならではの恵まれた環境を生かす。
- ・ 大学が持つ知見、専門性、資源を活用し、区民サービスの向上、地域社会の発展につなげる。

連携の各大学窓口

- 連携のコーディネート



連携の世田谷区窓口

- 連携のコーディネート
- 連携事例の集約と発信

区民健康村・ふるさと・交流推進課

連携のメリット

区：区政課題解決、公共サービスの提供と充実

大学：研究成果の活用、学術研究の発展、学生の成長

包括連携協定の締結

世田谷区は各大学と包括連携協定を締結することで、より強固な関係づくりとさらなる地域協働事業等の充実・発展を目指している。

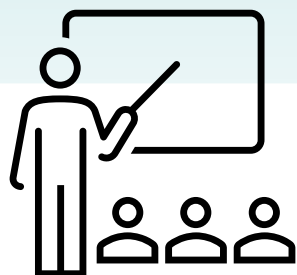
令和5年11月現在

	締結大学(締結日)		締結大学(締結日)
1	昭和女子大学(H26.5)	7	産業能率大学(H28.5)
2	日本体育大学(H26.6)	8	日本大学スポーツ科学部(H29.5)
3	日本女子体育大学(H26.7)	9	日本大学文理学部(H30.7)
4	東京都市大学(H27.3)	10	駒澤大学(R2.3)
5	成城大学(H27.7)	11	東京農業大学(R4.3)
6	明治大学(H28.3)	12	テンブル大学ジャパンキャンパス(R4.12)

連携事例の共有

ねらい

区と大学との連携における事例だけでなく、他自治体と大学の連携事例（成功事例）について、成功に至ったポイント等を共有し、持続可能で有益な連携創出にはこういった視点や情報、フィールドが必要かなど、様々な意見交換を通して地域社会の持続的発展を目指す。



連携事例①

～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

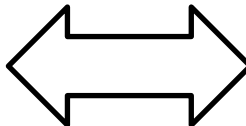
経緯

世田谷区議会議員・世田谷区長選挙の若者の投票率を向上させたい。

多摩美術大学の窓口

●連携のコーディネート

広報部社会連携課



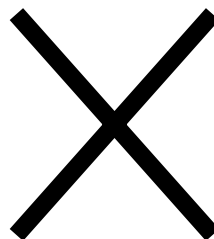
世田谷区の窓口

●連携のコーディネート

区民健康村・ふるさと・交流推進課

多摩美術大学
統合デザイン学科

専門的知見
若者視点



世田谷区
選挙管理委員会

実効性
(費用・法令観点)
公平性

連携事例①

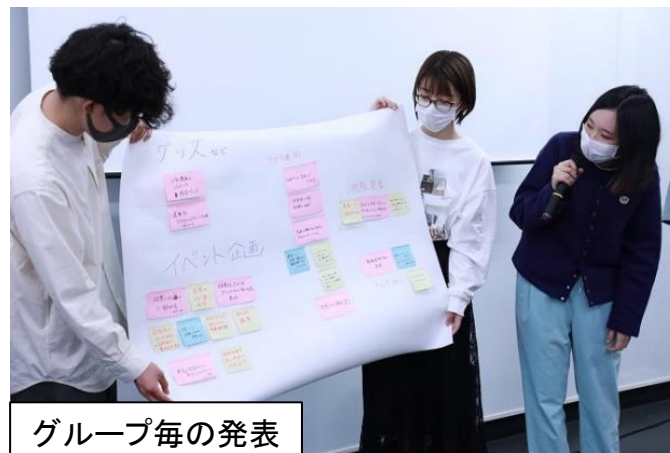
～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

検討過程

○課題整理 (何故若者は投票に行かないのか、どうすれば若者が投票に行くのか)



ディスカッション



グループ毎の発表

○啓発事業案の提案



提案の様子



提案スライド

連携事例①

～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

検証・協議

CHECK!

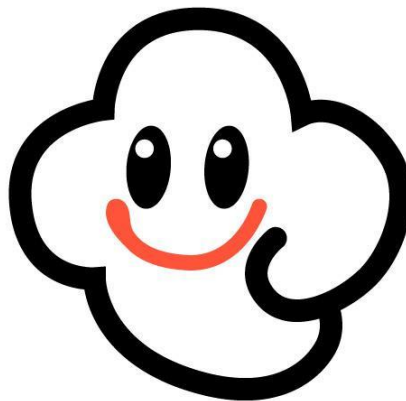
学生から提案された啓発事業案について以下の観点で区職員と大学で協議。

- ①費用面
- ②実施体制
- ③実施場所
- ④法令関係

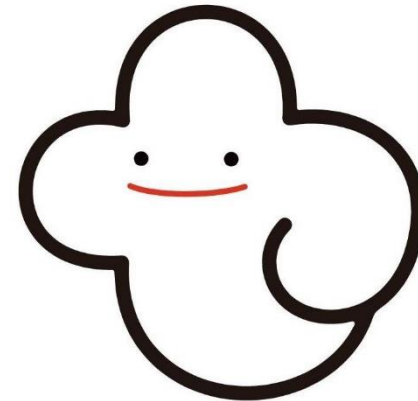
実施内容

世田谷区選挙マスコットを、今の若い世代にも親しみを持って認知してもらうためデザインをアップデート

セーボー（初代）



セーボー（2代目）



連携事例①

～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

実施内容

1 若年層向け啓発

- ①インスタグラム広告による啓発
- ②SNSによる周知
- ③啓発ポスターの掲出
- ④大型シール・懸垂幕・横断幕の掲出

2 次世代有権者向け啓発 (将来の投票率向上)

- ①「親子で投票に行こう」キャンペーン
投票所に来た小学生以下の子どもにシール配布
- ②小学校における模擬投票の実施



連携事例①

～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

投票日以降にSNSに投稿された反響

(っ´▽´)っ セーポーがかわいすぎて生きてるのがつらい

「親子で投票に行こう」キャンペーン|世田谷区のお知らせ|世田谷区民ニュース



kumin.news

「親子で投票に行こう」キャンペーン|世田谷区のお知らせ

6:11 · 2023/04/23 · 274回表示

明日投票所になる施設には案内の貼り紙が貼られてました。セーポー、いつのまにか「セー」「ポー」とか、いろんな形になって登場。読みやすく、かわいいデザインになっていると思います。(e)



19:17 · 2023/04/22 · 2044回表示

連携事例①

～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

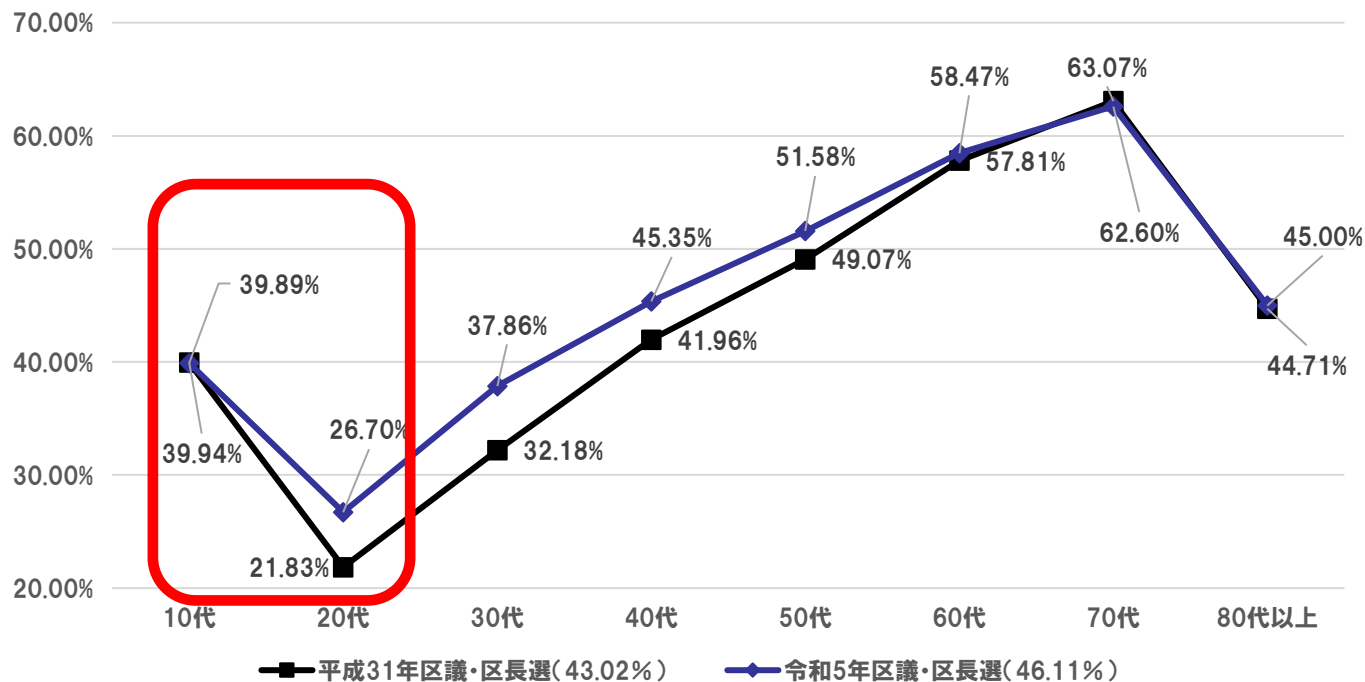
10代・20代の投票率

若者の投票率向上プロジェクトでの啓発効果もあり、令和5年4月執行世田谷区議会議員・区長選挙での10代、20代の投票率は平成31年4月執行同選挙と比較し+4.82%。

結果を踏まえた改善等、中長期的に取り組む予定。

CHECK!

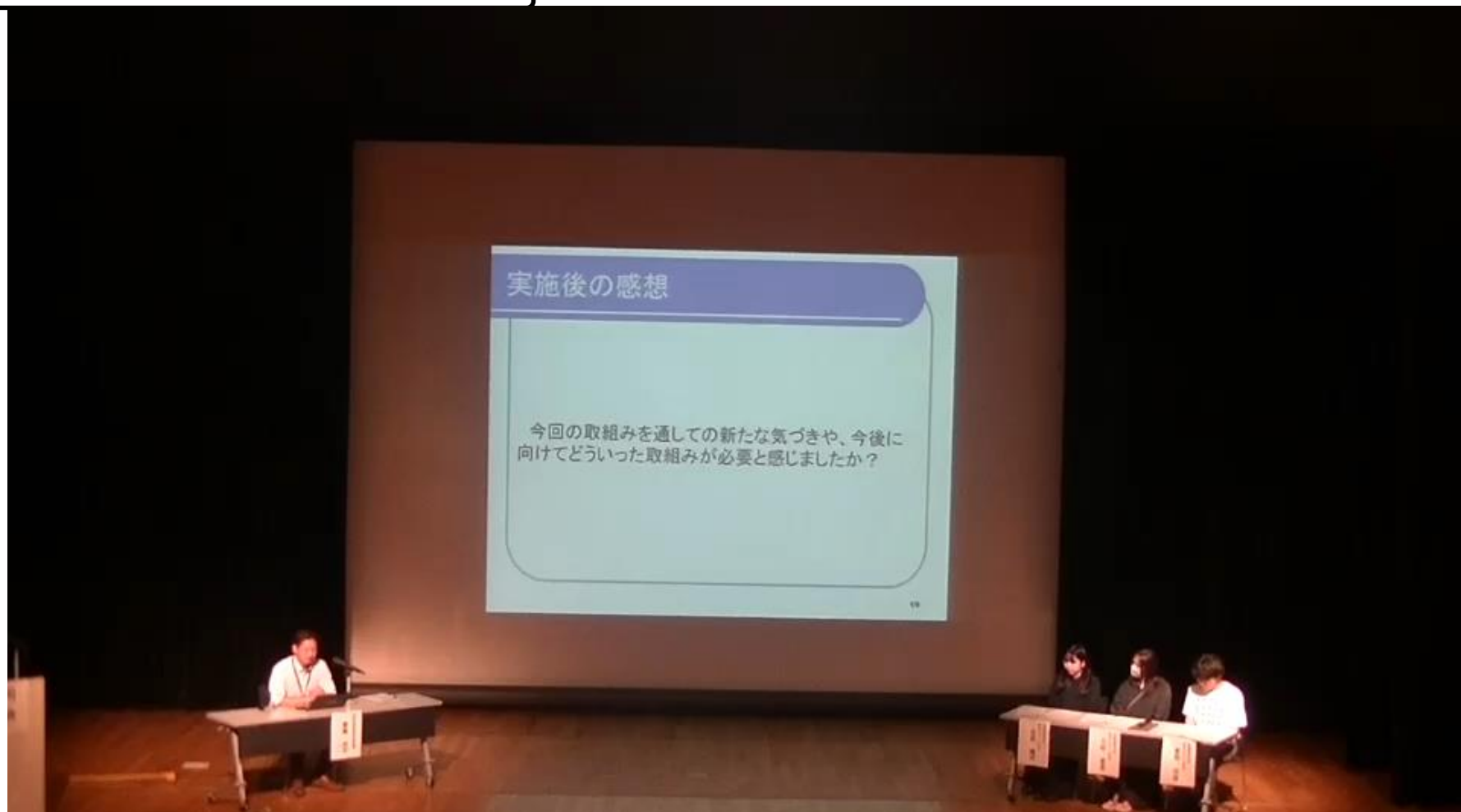
年代別投票率



連携事例①

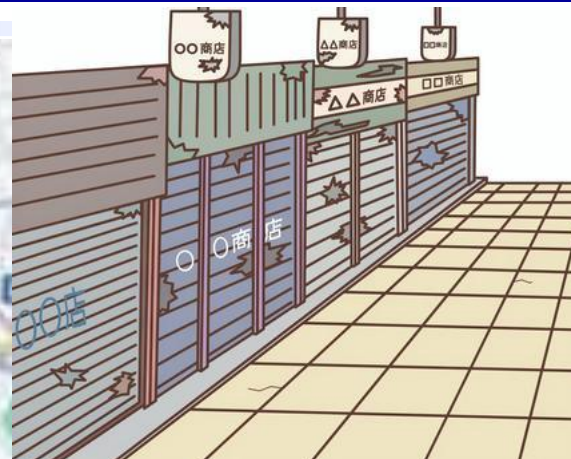
～若者の投票率向上プロジェクト～(多摩美術大学×世田谷区)

学生の声



連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)



日比野商店街 (名古屋市熱田区)

組合員数

H3 (設立時) 62店



H18 41店

連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)

名古屋学院大学の開設を契機に、商店街活性化の動きが。



前身である愛知英語学校創立から120年になる平成19年4月、誕生の地である名古屋市熱田区に再度キャンパスを移転。

経済学部政策学科(現:現代社会学部現代社会学科)は商店街活性化をはじめとする地域活性化研究を推進している。



キャンパス移転前の平成18年秋頃、名古屋市に日比野商店街と連携した取組みができないか打診。



平成19年10月『名古屋学院大学と名古屋市との連携協力に関する協定』締結。

連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)



平成20年1月 学生運営のカフェがオープン



大 学：①地域貢献

②地域連携活動を通じた学生の実践力の醸成

自治体：衰退する地域の活性化

連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)

- ・ 毎月1回「商店街活性化委員会」を実施。
- ・ 学生のアイディアによるスタンプラリー、大学の屋上で養蜂しているミツバチから採取したはちみつを使用した商品販売などを実施。



名古屋学院大学の学生らが、キャンパス内で飼育しているニホンミツバチから採取したはちみつを使ったパン「はちみつパン」を商品化した。同名のニホンミツバチを商品化した。同名のニホンミツバチを商品化した。同名のニホンミツバチを商品化した。

名古屋学院大製 ちみつパン

いきもの地球会議 COP10

学生ら商品化、ロゴも制作

同プロジェクトは、地元の日比野商店街とも連携。二〇一一年度には採取したはちみつを使った洋菓子やしさを商品化するプロジェクトを目指す。プロジェクトに加える経済学部の水野晶夫教授は「はちみつを地域の活性化に役立て、食を通じて生態系について考えてもらいたい」と話している。



連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)

平成19年連携
事業をスタート

平成22年「愛知
県活性化モデル
商店街」に認定。

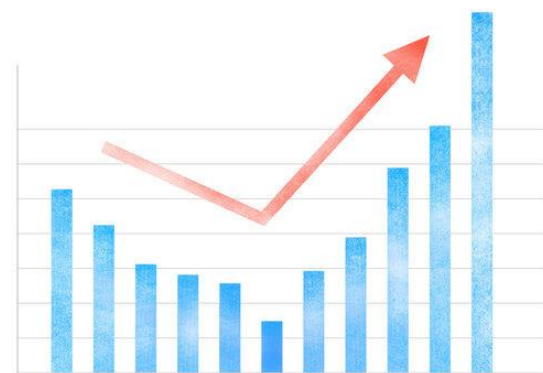
平成25年全国
商店街振興組合
連合会『商店街
の可能性を目指
し』の10事例の
1つとして掲載。

商店街の組合員数

平成3年(設立) : 62店

平成18年 : 41店

平成26年 : 85店



連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)

CHECK!

連携ポイント

属人的ではない、**組織対組織の関係による持続可能なシステムを構築**

組織の確立

- ・平成19年の名古屋キャンパス開設を契機に、地域連携活動を推進するための、地域連携センターを名古屋学院大学が開設。

協定

- ・平成19年10月、名古屋市と名古屋学院大学が協定締結。

連携協議会

- ・「熱田区まちづくり協議会」のもとに、大学、商店街、行政等をメンバーとする委員会を組織。

連携にあたって留意した点

- ・一方的な要求にならないようWin-Winな関係を維持。
- ・地域からの評価を学生に直接伝えるなど、社会的評価による達成感が活動の源。

連携事例②

商店街活性化活動(名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合)

学生の声

- ★問題解決能力、企画力が身についた。
- ★プレゼン等説明する機会が多く、コミュニケーション力が高まった。
- ★チームで働くことから助け合う大切さを学んだ。



参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)

大学・学生と地域が顔見知りになるきっかけづくり

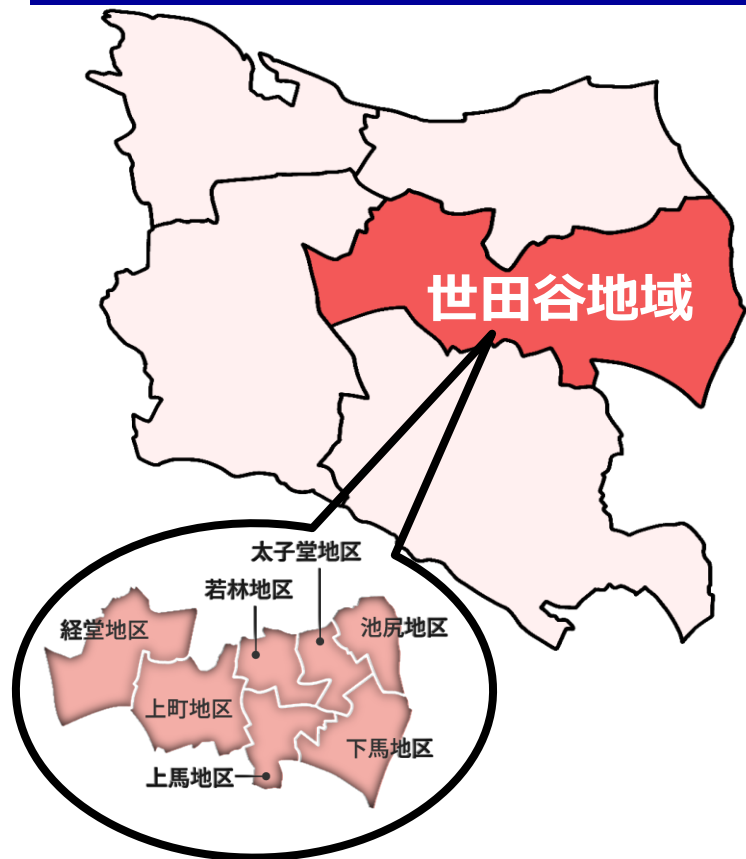
学生たちが地域の方々と交流しながら、各グループで設定したテーマについて調査研究など活動中。



参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)



世田谷地域 の大学へ通う学生が、
地域の特性や課題 を学び、
地域活動の**参加**や地域住民との**協働**
を通して、活動の**成果**や**アイデア**を
地域住民へ発表するプロジェクト。

研究分野、興味・関心に沿ったテーマで

地域・地区で活動、調査、研究

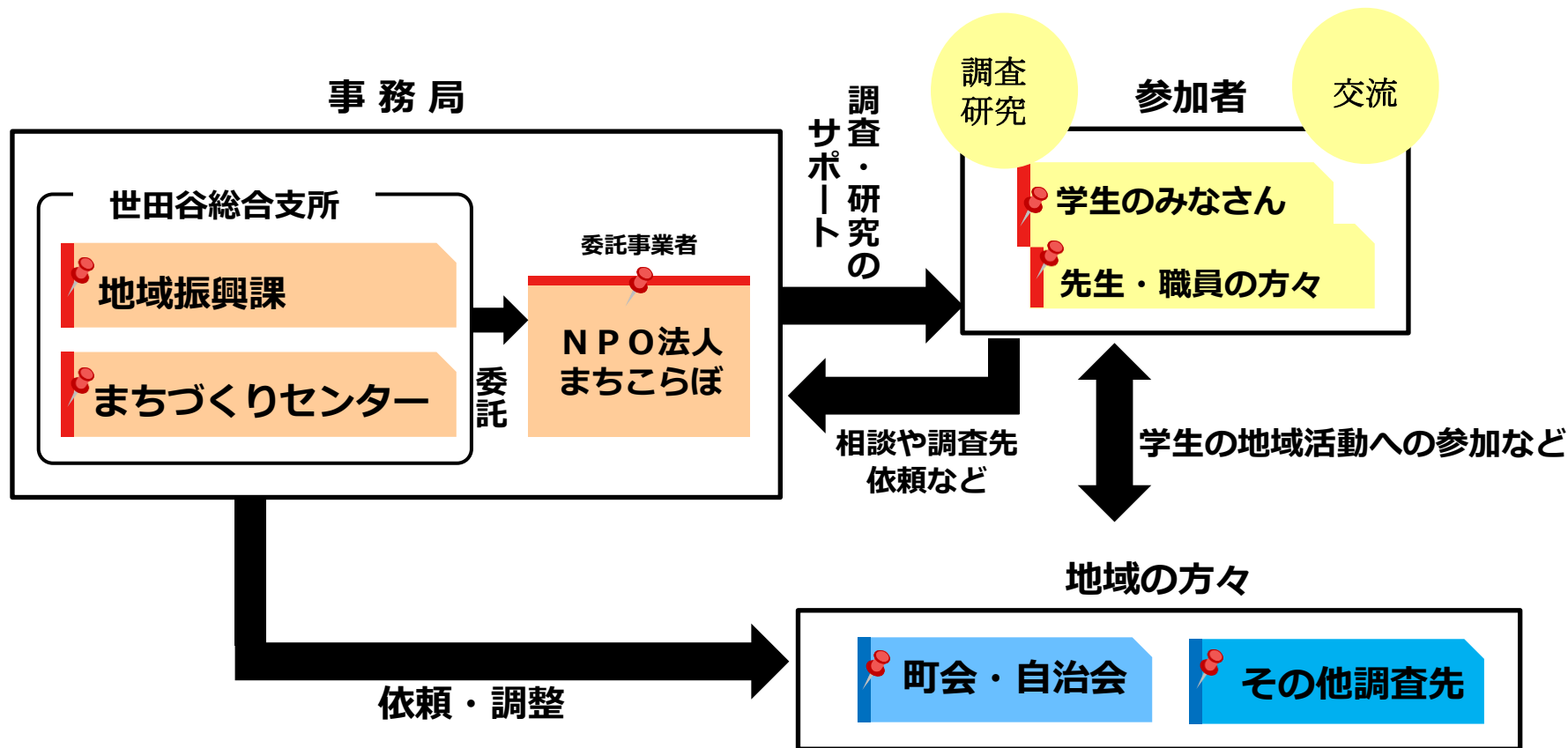


参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

(国土館大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)

世田谷地域「地域交流ラボ」実施体制



参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)



<https://www.city.setagaya.lg.jp/setagaya/001/009/d00203716.html>



参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

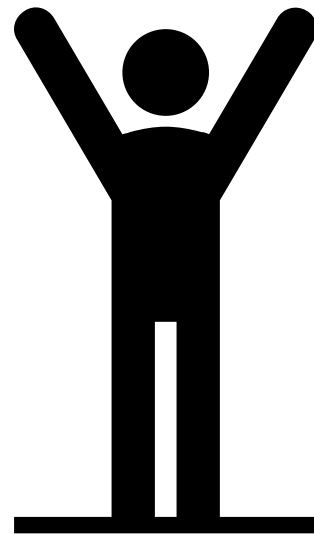
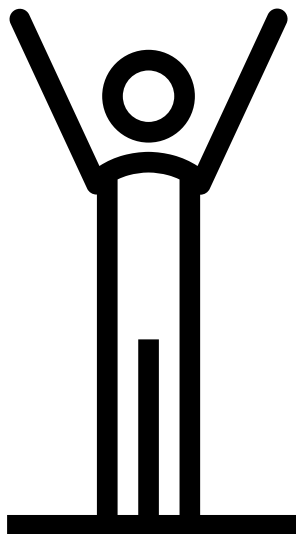
(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)

大 学：地域活動を通じた学生の実践力の向上

現場の生きたニーズを研究に反映

自治体：多世代交流による地域活性化

地域課題の発見と解決



参考事例

世田谷地域 地域交流ラボ

(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域)

学生の感想

- ◆通常の調査ではなかなか得られない、「地域の方々の生の声」を聞いた点が、非常に良かった。
- ◆外部の団体にヒアリングを行うにあたり、大人への連絡のマナーが身につきました。
- ◆今回の活動は、自分の就職活動にも大きく役立ちました。
- ◆大学生のうちに行政や町会、その他各団体の方々の協力で地域課題の解決に取り組むことが大変貴重でした。



事例から見る連携のポイント

- 1 連携に関わる組織の確立
- 2 連携を推進する大義名分(協定の締結)
- 3 顔の見える関係性、出会いの場
- 4 目的・目標、相手に求めている事柄が明確、具体的
- 5 中長期的内容
- 6 Win-Winな関係
- 7 地域資源・課題と学問体系のマッチング

最後に

区内の大学は、スポーツ・語学・医療・文化・産業・農業・災害対策など、大学の得意分野を持っています。

こうした英知を大学間で連携することで、さらなる相乗効果をもたらすことが期待できます。

そうした力を、子どもや高齢者、障害者をはじめとした区民に還元できるよう、行政課題の解決に協力・連携を引き続きお願いします。

大学連携が、さらに世田谷区とつながりのある地方の自治体とも連携することで、地方で抱えている課題の解決にもつながるため、自治体は大学との連携に期待をしています。



大学の力は、地域に欠かせません！